

尾張平野を語る18

仁王胴具足の謎に迫る

一宮市は濃尾平野の木曾川中流域左岸に位置し、古くは縄文時代の中ころから人々が暮らしはじめ、現在までさまざまな文化を育みながら尾張の歴史と文化の一端を担ってきました。

一宮市博物館では、これまで十七回にわたり、自然・考古・民俗・歴史・美術工芸などさまざまな分野の講師をお招きし、尾張平野の歴史と文化を紹介してきました。

十八回目となる今回は、一宮市木曾川町に伝わる「仁王胴具足」の共同研究と復元に向けての調査の成果を紹介します。



尾張平野を語る18

仁王胴具足の謎に迫る

「仁王胴具足」とは

仏像の仁王をかたどっていることから、「仁王胴具足」と呼ばれており、東京国立博物館やスペイン王立武器庫などにわずかに残る様式の甲冑です。

市内木曾川町の黒田大畑町内会に伝わり、昭和54年に旧木曾川町の資料館に寄贈されました。地元では山内一豊の父・盛豊の所用などと伝えられています。

博物館と東京文化財研究所の共同研究から科学分析を中心とした製法や製作年代を考察し、また時代背景や復元に向けてなど、この仁王胴具足が現代に語りかけてくる謎に迫ります。



2/2
(日)

仁王胴具足の構造調査から見えてくるもの
～桃山文化期の技術革新～

東京文化財研究所保存修復科学センター伝統技術研究室 室長 北野信彦氏
東京文化財研究所保存修復科学センター 主任研究員 犬塚将英氏

2/9
(日)

文化財染織品の科学分析から分かること
～仁王胴具足を含む種々の染織品を例にして～

京都工芸繊維大学美術工芸資料館 研究員 佐々木良子氏

2/16
(日)

甲冑史からみた仁王胴具足

東京国立博物館学芸研究部付日本工芸研究担当 上席研究員 池田宏氏

2/23
(日)

戦国時代の変わり兜と仁王胴具足の製作背景

鶴見大学文学部文化財学科 教授 小池富雄氏

3/2
(日)

桃山時代の仁王胴具足を復元する

寺本文化財工芸社 甲冑師 寺本靖氏



合当理(がったり)



待受(まちうけ)



袴(こはぜ)

時間 各回午後1時30分～3時

場所 一宮市博物館 講座室

定員 各回先着100名

参加費 無料(ただし、常設展観覧料が必要)

申し込み方法 当日博物館受付で正午より整理券を配布します。

一宮市博物館

〒491-0922 愛知県一宮市大和町妙興寺2390
TEL 0586-46-3215 FAX 0586-46-3216
URL <http://www.icm-jp.com/>

休館日 毎週月曜日、祝日の翌日

開館時間 午前9時30分～午後5時(入館は4時30分まで)

観覧料 (常設展含む) 一般200円(160円)、高校・大学生100円(80円)、小・中学生50円(40円)

※()内は20人以上の団体料金 ※一宮市内小・中学生は無料、市外小・中学生は土曜日無料

※一宮市内在住の満65歳以上で、住所・年齢の確認できる公的機関発行の証明書等を提示された方は無料

※身体障害者等の手帳を持参の方(付添人1人を含む)は無料

交通 名鉄名古屋本線「妙興寺」駅南口下車徒歩7分、ニコニコふれあいバス「博物館西」下車徒歩5分

※常設展示リニューアル工事のため、平成26年3月11日(火)から9月末まで休館します。

